

- 問1 1世紀半ば、奴国の王が中国の王朝（漢）に使者を送り、金印を授けられたという出来事について、その当時の国際関係のあり方や目的を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2026年 山口県公立入試 類似）
1. 対等な立場での外交を求める国書を送り、大陸の進んだ律令制度を日本へ速やかに導入することを目的とした
 2. 朝鮮半島での軍事的な優位を確保するため、中国の王朝と軍事同盟を結び、援軍を派遣してもらう約束を取り付けた
 3. 中国の皇帝に朝貢してその支配下に入ることで、自身の王としての地位を認めさせ、国内での権威を高めようとした
 4. 仏教を日本に広めるため、優れた経典や仏像を日本へ持ち帰る許可を皇帝に求める使節を派遣した
- 問2 弥生時代に大陸から伝わった技術や文化が、当時の社会に与えた影響を説明した文として、最も適切なものはどれですか。（2022年 鹿児島県公立入試 類似）
1. 狩猟や採集がより効率的になり、人々は移動を繰り返しながら竪穴住居に住んだ。
 2. 青銅器が実用的な農具として普及したことで、開墾が進み全国的な統一国家が誕生した。
 3. 稲作の普及により食料の蓄えが可能になり、貧富の差や集団をまとめる王が現れた。
 4. 巨大な前方後円墳を築くための高い土木技術が伝わり、各地に大規模な古墳が作られた。
- 問3 3世紀の中国（魏）の歴史書には、当時の日本の様子が記述されています。邪馬台国の女王である卑弥呼が、魏の皇帝から授かった称号と品物の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2023年 岩手県公立入試 類似）
1. 征夷大將軍の称号と、刀や鎧
 2. 倭王武の称号と、鉄剣
 3. 漢委奴国王の称号と、金印
 4. 親魏倭王の称号と、金印や銅鏡
- 問4 大陸から稲作の技術が伝わったことで、人々の生活や集落の様子は大きく変化しました。この時期の集落において、収穫した食料を管理・保存するために設けられた特徴的な施設として適切な名称を選びなさい。（2021年 岡山県公立入試 類似）
1. 環濠集落
 2. 竪穴住居
 3. 高床倉庫
 4. 前方後円墳
- 問5 弥生時代の社会の変化について述べた文として、当時の集落のあり方や道具の特徴を正しく説明しているものはどれですか。（2024年 沖縄県公立入試 類似）
1. 縄目の文様がある厚手で黒褐色の土器を使用し、主に狩りや採集を行って生活した。
 2. 竪穴住居が並ぶ大規模な集落が形成されたが、外敵を防ぐための堀などは作られなかった。
 3. 集落の周りに堀や柵を巡らせ、薄くて硬い土器や鉄器・青銅器などの金属器を使用した。
 4. 仏教の伝来とともに巨大な前方後円墳が造られ、集落の形が大きく変化した。
- 問6 弥生時代の遺跡からは、青銅器と鉄器という二種類の金属器が発見されています。鉄器が農具の刃先として普及したことが、当時の社会に与えた影響として最も適切な説明を選びなさい。（2023年 大阪府公立入試 類似）
1. 石器に比べて加工が簡単だったため、各家庭で容易に自給できるようになった。
 2. 農具が重くなったことで、小規模な家族単位での農業が不可能になった。
 3. 青銅器よりも希少価値が高かったため、王の権威を示すための宝物としてのみ扱われた。
 4. 土地の開墾や耕作が容易になり、食料である米の生産力が向上した。
- 問7 福岡県の志賀島で発見された金印には、正方形の印面に「漢委奴国王」の五文字が刻まれており、つまみの部分は蛇を模した形状（蛇鈕）となっています。この金印を奴国の王が後漢の皇帝から授かった政治的な背景として、最も適切な説明はどれですか。（2023年 高山県公立入試 類似）
1. 卑弥呼が「親魏倭王」の称号を得るための事前交渉として、大陸との友好関係を築くため
 2. 中国の皇帝から地位を認められることで、自らの権威を高めて周辺の勢力を抑えようとしたため
 3. モンゴル民族の侵攻に対抗するため、大陸の軍隊に日本列島までの援軍を要請したため
 4. 大陸から仏教を公式に導入するための許可を得て、国内の宗教的な統一を図ろうとしたため
- 問8 「漢書」地理志や「魏志」倭人伝などの中国の歴史書には、倭の女王である卑弥呼や、それ以前の倭の小国の王が、中国の皇帝に使者を送ったことが記されています。このような古代の日中外交において、日本の支配者が中国の皇帝から称号を授かるようとした主な目的として、最も適切な説明はどれですか。（2024年 宮崎県公立入試 類似）
1. 中国の強力な武力や権威を背景に、日本国内の他の勢力に対して自らの支配の正当性を示すため。
 2. 中国の皇帝と対等な立場で軍事同盟を結び、高句麗や新羅を共同で攻撃するための約束を取り付けるため。
 3. 中国の皇帝から直接的に領土を譲り受け、日本列島を中国の行政区画の一部として統治するため。
 4. 中国国内でのキリスト教の布教を許可してもらい、宗教的な指導者としての地位を確立するため。
- 問9 兵庫県神戸市の桜ヶ丘町などで出土した、釣り鐘のような独特の形をした弥生時代の青銅器について述べた文として、最も適切なものはどれですか。なお、この青銅器の表面には、当時の生活の様子や幾何学的な文様が描かれていることがあります。（2021年 大阪府公立入試 類似）
1. 狩猟や農耕の様子が描かれた、祭祀に用いられた銅鐃である
 2. 縄文時代の集落で見つかる、魔除けのために作られた土偶である
 3. 魏の皇帝から邪馬台国の女王に贈られたとされる銅鏡である
 4. 古墳の副葬品として納められた、馬に装着する鉄製の装具である
- 問10 弥生時代の食生活の変化をまとめた資料では、この時期に稲作が広まったことが記されています。これと同じ時代、1世紀の日本の様子について述べた、中国の歴史書『後漢書』東夷伝の内容として正しいものを選びなさい。（2022年 広島県公立入試 類似）
1. 推古天皇の使者として小野妹子が隋に渡り、対等な外交を求めた。
 2. 倭の奴国の王が後漢に使いを送り、光武帝から金印を授けられた。
 3. 倭の五王が中国の南朝に使者を送り、朝鮮半島での軍事的地位を認めさせた。
 4. 卑弥呼が魏の皇帝に使いを送り、「親魏倭王」の称号と金印を授けられた。
- 問11 弥生時代の高床（式）倉庫において、柱と床が接する部分に「ネズミ返し」と呼ばれる板状の部材が取り付けられた理由として、当時の社会背景を踏まえた説明はどれですか。（2021年 佐賀県公立入試 類似）
1. 大陸から新たな建築技術が伝来し、建物の耐震性を高めて大規模な集落の崩壊を防ぐ必要があったから。
 2. 定住生活が始まったことで、家畜として飼育し始めた動物が建物内に入り込むのを防ぐ必要があったから。
 3. 稲作の開始によって収穫した食料を蓄えるようになったため、その貯蔵分を害獣から保護する必要があったから。
 4. 集落間の争いが激しくなったため、床下に敵が潜り込んで火を放つことを防ぐ防御壁が必要だったから。
- 問12 西暦57年から16世紀末までの歴史的な出来事をまとめた年表において、3世紀の項目に「倭の女王が魏に使いを送る」という記述があります。この時、女王卑弥呼が中国の王朝と外交関係を結んだ主な背景や目的として最も適切なものはどれですか。（2019年 茨城県公立入試 類似）
1. 中国で確立されていた律令制度を学び、天皇を中心とした中央集権国家をいち早く形成するため
 2. 仏教を正式な国教として導入するために、大陸から僧侶を招き、寺院建設の支援を受けるため
 3. 鉄資源を独占するために、朝鮮半島南部の任那（加羅）に日本府を設置する許可を得るため
 4. 中国の皇帝から王としての地位を認められることで、国内の統治や周辺諸国との関係を有利に進めるため

答え合わせ・解説

問1	答え 3 中国の皇帝に朝貢してその支配下に入ること で、自身の王としての地位を認めさせ、国内 での権威を高めようとした	当時の日本（倭）は多くの小国に分かれて争っており、各国の王は、強大な力を持つ中国の皇帝に貢物を捧げる「朝貢」を行いました。それに対して皇帝がその土地の支配権を認める（冊封）ことで、王は自国内や周辺の国々に対して自分の正統性や優位性を誇示しようとした。1世紀の奴国の王による外交も、こうした背景によるものです。
問2	答え 3 稲作の普及により食料の蓄えが可能になり、 貧富の差や集団をまとめる王が現れた。	稲作の開始は、単なる食生活の変化にとどまらず、社会構造に劇的な変化をもたらしました。収穫した米を蓄えることで余剰生産物が生まれ、それを管理・所有する層が現れたことで、貧富の差や身分の違い（階級）が生じました。その結果、小国を治める王のような強力な指導者が登場し、中国の歴史書にある「100余りの国」のような政治的なまとまりが形成される要因となりました。なお、青銅器は主に祭祀用であり、実用的な農具は鉄器が担いました。
問3	答え 4 親魏倭王の称号と、金印や銅鏡	中国の歴史書（魏志倭人伝）によると、3世紀に邪馬台国の卑弥呼が魏へ使いを送り、朝貢を行いました。その際、魏の皇帝から「親魏倭王」という称号とともに、その証となる金印や100枚の銅鏡などの返礼品を授けられたと記されています。なお、1世紀（紀元57年）に後漢の光武帝から金印を授かったのは奴国の王であり、混同しないよう注意が必要です。
問4	答え 3 高床倉庫	弥生時代に稲作が普及すると、人々は安定して食料を得られるようになり、定住生活が進みました。これに伴い、余剰となった収穫物を保存する専用の施設が必要となり、高床倉庫が作られるようになりました。住居として使われた地面を掘り下げた構造の「竪穴住居」とは、その役割と構造が明確に区別されています。
問5	答え 3 集落の周りに堀や柵を巡らせ、薄くて硬い土 器や鉄器・青銅器などの金属器を使用した。	弥生時代は、稲作の普及に伴い金属器（鉄器・青銅器）や、縄文土器に比べて薄くて硬い弥生土器が使われ始めました。社会構造の変化により、争いから身を守るための環濠集落が築かれたのがこの時期の大きな特徴です。縄目の文様がある土器や、防御施設のない大規模集落（三内丸山遺跡など）は主に縄文時代の特徴です。
問6	答え 4 土地の開墾や耕作が容易になり、食料である 米の生産力が向上した。	鉄は青銅よりも非常に硬いため、木製の農具の先端に装着することで、硬い土を掘り起こしたり森林を切り拓いたりすることが可能になりました。これにより耕作面積が拡大し、農業の生産性が飛躍的に高まりました。一方、祭祀用として重宝されたのは、鉄器ではなく主に青銅器（銅鏡や銅鐸など）の方でした。
問7	答え 2 中国の皇帝から地位を認められることで、自 らの権威を高めて周辺の勢力を抑えようとし たため	当時の倭（日本）は多くの小国に分かれていました。奴国のような有力な国の王は、中国の皇帝に使節を送って「臣下」となる代わりに、王としての正当性を認めてもらう（冊封を受ける）ことで、国内や周辺諸国に対する権威を強化しようとした。仏教の伝来や卑弥呼の登場、モンゴルの侵攻はすべて後の時代の出来事です。
問8	答え 1 中国の強力な武力や権威を背景に、日本国内 の他の勢力に対して自らの支配の正当性を示 すため。	当時の日本（倭）は多くの小国が並立しており、各勢力の首長は自らの支配力を誇示し、国内を安定させる必要がありました。先進文化を持つ中国（漢や魏など）の皇帝から「親魏倭王」のような称号や金印を授かることは、周辺勢力に対して「自分こそが正当な統治者である」と主張するための強力な裏付けとなりました。
問9	答え 1 狩猟や農耕の様子が描かれた、祭祀に用いら れた銅鐸である	釣り鐘状の青銅器は銅鐸と呼ばれ、弥生時代の文化を象徴する遺物です。銅鐸の表面には、当時の人々が狩りをする姿や、高床倉庫、稲作の様子などが浮き彫りで描かれているものがあり、文字のない時代の生活を知るための重要な手がかりとなっています。縄文時代の土偶や、古墳時代の鉄製武具とは時代や特徴が異なります。
問10	答え 2 倭の奴国の王が後漢に使いを送り、光武帝か ら金印を授けられた。	紀元1世紀、現在の福岡県付近にあったとされる「奴国」の王は、後漢の光武帝に使者を送りました。その事実は、江戸時代に志賀島（福岡県）で「漢委奴国王」と刻まれた金印が発見されたことによって裏付けられています。3世紀の卑弥呼（魏志倭人伝）、5世紀の倭の五王（宋書）、7世紀の遣隋使（隋書）など、中国のどの王朝の時代に、誰がどのような目的で交渉したかを区別することが重要です。
問11	答え 3 稲作の開始によって収穫した食料を蓄えるよ うになったため、その貯蔵分を害獣から保護 する必要があったから。	弥生時代の大きな特徴は、本格的な稲作の開始により食料の「貯蔵」が可能になったことです。蓄えられた米は人々の命をつなぐ重要な資源であり、これをネズミなどの害獣に食い荒らされることは、集落の存続に関わる重大な問題でした。そのため、物理的に侵入を遮断する「ネズミ返し」という構造が必要とされました。このような食料の蓄積は、後の貧富の差や身分の違い、集落同士の争いにもつながっていきます。
問12	答え 4 中国の皇帝から王としての地位を認められる ことで、国内の統治や周辺諸国との関係を有 利に進めるため	当時の倭（日本）は多くの小国が分立し、争いが続いていた時期でした。邪馬台国の女王である卑弥呼は、当時の中央アジアから東アジアにかけて強大な勢力を持っていた魏の皇帝に朝貢し、自らを王として承認（冊封）してもらうことで、その権威を背景に国内の連合体制を強化しようと考えました。これは、中国の皇帝を中心とした国際秩序を利用した外交政策の一環です。